

## 初期官報バックナンバー閲覧システムの開発

稲葉真人<sup>†</sup> 北村正光<sup>‡</sup> 日下由紀夫<sup>¶</sup> 野牧賢志<sup>†</sup> 山澤聡<sup>†</sup> 夜久竹夫<sup>†</sup>

日本大学<sup>†</sup> 龍溪書舎<sup>‡</sup> 東総システム<sup>¶</sup>

### 1. はじめに

官報は明治 16 年 7 月から現在まで発行が続けられている。昭和 22 年分以降は（独）国立印刷局が WEB 公開している[2]。しかし、初期の官報のデジタル化は行われていないため、初期の官報を研究者が利用することに困難が伴っている。そこで、我々は初期の官報を利用し易くする事を考える。

本研究では龍溪書舎版（復刻版）官報計画[1]を元に 1 号から 866 冊分、約 25 万ページ分を対象とする閲覧システムを開発する。

### 2. 開発手法

主に以下の機材を利用した。

ブックスキャナ ミノルタ EPICWIN 7000EX  
（文部省学術フロンティア設備）

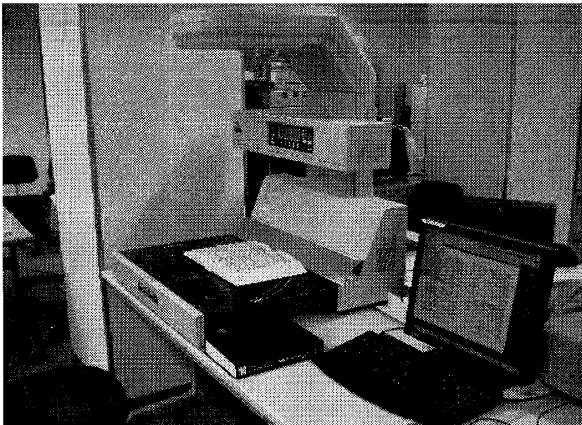


図 1 ブックスキャナの外観

その他、ドキュメントスキャナ マイクロテック Book Shot BS1200（文部省学術フロンティア設備）、文理学部図書館のブックスキャナ、文部科学省科研費（東京学芸大学）の設備など

Development of a Back Number Browsing System for Meiji Daily Gazette

<sup>†</sup>Masato Inaba · Nihon University, <sup>‡</sup>Masamitsu Kitamura · Ryuukei Shosha, <sup>¶</sup>Yukio Kusaka · TOSO System, <sup>†</sup>Kenshi Nomaki · Nihon University, <sup>†</sup>Satoshi Yamazawa · Nihon University, <sup>†</sup>Takeo Yaku · Nihon University.

を利用した。

### 3. サーバシステム

初期の官報は旧漢字で書かれているが、旧漢字対応の適当な OCR ソフトウェアが無い。そこで本システムは画像ファイルを用いる。

表 1 システムの概要

名称	日本大学文理学部図書館所蔵・明治大正期官報バックナンバー閲覧システム[3]
目的	(1) デジタル化の支援 (2) 検索を伴う閲覧

### 3.1 システム構成

構成は以下の通りである。

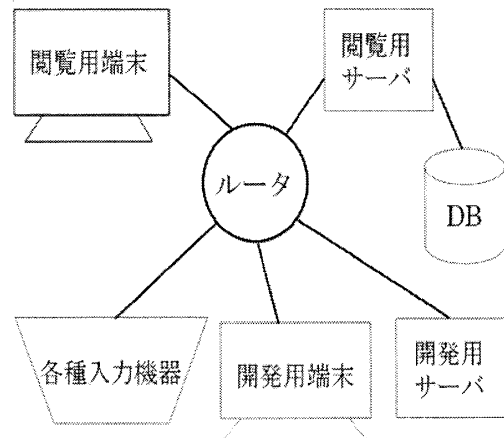


図 2 システム構成図

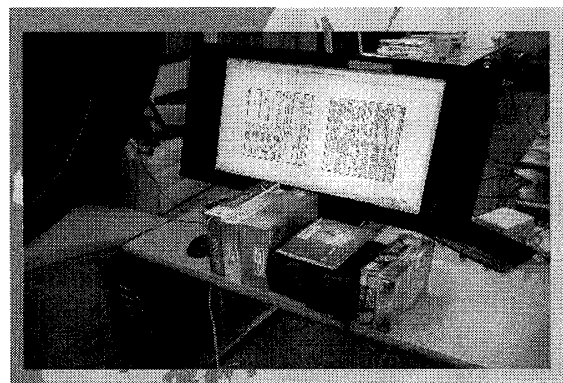


図 3 システムの外観

### 3.2 管理・閲覧用サーバ 概要は以下の通りである。

表2 管理・閲覧用サーバの概要

管理用サーバ	Windows XP Pro	
ディスク	2TB	
データ作成支援 プログラム 目録、天候などイ ンデックスを付け	記述言語	VB
閲覧用プログラム 年月日を入力して 該当官報を出力	記述言語	C#
閲覧ソフトウェア	Internet Explorer	

### 4. データベース

概要は以下の通りである。2節の設備を用いて構築した。

表3 データベースの概要(2008.11.30現在)

構築期間／人数 ／総作業時間	約5年／延40人 ／約2598時間	
収納冊数	552冊	
収納ページ数	約150,000ページ	
保存ファイル (TIFF形式)	ファイル数 サイズ	約250,000 約1.5TB
閲覧用ファイル (JPEG形式)	ファイル数 サイズ	約250,000 約75GB

### 5. 実行例

以下で初期画面と検索結果を示す。

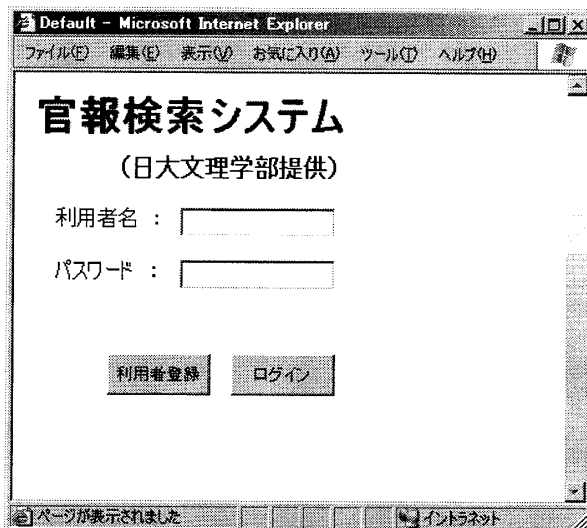


図4 初期画面

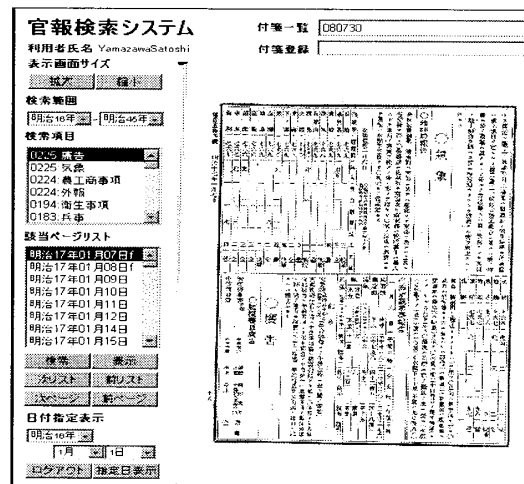


図5 検索結果の画面

### 6. おわりに[4]

本システムは地理・地学 CAI システムで利用され有効性が確認された[5]。

このプロジェクトを提案した島方洗一氏（日本大学文理学部長）と、辻勝美氏・飯塚氏（日本大学図書館）に感謝します。画像設計に関して田中ゆかり氏（日本大学文理学部）にも感謝します。又、龍溪書舎の長島大樹氏に感謝します。最後にデジタル化作業の支援をいただいた学術フロンティアの毛利康秀 PD に感謝します。

### 参考文献

- [1] 官報（復刻版），龍溪書舎，1990。
- [2] インターネット官報 独立行政法人国立印刷局 <http://kanpou.npb.go.jp/>
- [3] 日本大学文理学部図書館所蔵・明治大正期官報閲覧システム第1回公開デモンストレーション資料，2007.4.27，日本大学文理学部百周年記念館。
- [4] 夜久研究室官報プロジェクトサイト <http://www.yakulab.org/projects/site-kanpou>
- [5] 夜久竹夫他，地理地学 CAI システム，学術フロンティア第1回シンポ資料，2007。